

平成26年度（2014年度）
[平成26年4月1日～平成27年3月31日]

事業報告

公益財団法人 マツダ財団

目 次

平成26年度(2014年度)事業報告 (総括)	1
I. 科学技術振興に関する活動の概要	2
I-1. 研究助成	2
1. 募集・応募・選出状況	2
2. 助成件数の推移	3
3. 第30回(2014年度)マツダ研究助成一覧	4
4. 第30回(2014年度)マツダ研究助成選考委員奨励賞一覧	5
I-2. 事業助成	6
1. 募集・応募・選出状況	6
2. 助成件数の推移	7
3. 第30回(2014年度)マツダ事業助成一覧	8
I-3. 科学わくわくプロジェクト	9
II. 青少年健全育成に関する活動の概要	11
II-1. 研究助成	11
1. 募集・応募・選出状況	11
2. 助成件数の推移	12
3. 第30回(2014年度)マツダ研究助成一覧	13
II-2. 市民活動支援	14
1. 募集・応募・選出状況	14
2. 支援件数の推移	15
3. 第30回(2014年度)マツダ市民活動支援一覧	16
II-3. 感動塾・みちくさ	17
II-4. スタートラインプロジェクト	18
II-5. 第33回講演会	19
II-6. 大学寄付講義の実施概要	20
III. 管理事項の概要	21
III-1. 役員等に関する事項	21
1. 平成27年3月31日現在の役員・評議員の名簿	21
2. 役員等の異動状況	21
III-2. 職員に関する事項	22
III-3. 理事会・評議員会等、主な活動事項	22
III-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項	23
III-5. 登記に関する事項	23

平成26年度(2014年度)事業報告(総括)

当財団の設立目的である「科学技術の振興」、「青少年の健全育成」について次の活動を行いました。この活動のためマツダ株式会社から寄付を受け、低金利による運用収益低下の影響を最小限に抑えるとともに、最大限の社会貢献に資するべく創意工夫をしました。

加えて、本年度は財団設立30周年となることから、これを記念して各事業の中で節目となる活動を実施しました。

まず、科学技術振興分野では、先進性・独自性のある研究に対して助成を行いました。特に、「若手研究者」、「萌芽的研究」、「循環・省資源への寄与」に継続して注力しました。また、青少年の科学離れへの対応として、小中高校生を対象に科学にわくわくする機会を提供し「科学するところ」を養うことを目指した事業「科学わくわくプロジェクト」を広島大学と共同して実施しました。

次に、青少年健全育成分野では、市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に絞って助成を行いました。市民活動支援は、広島・山口両県における青少年健全育成のための地域に密着した活動に助成しました。また、小学生に感動を与えるプロジェクト「感動塾・みちくさ」は、(公財)広島市文化財団と共同開催しました。講演会では、美輪 明宏氏を講師としてお招きし、「子供の教育・親の教育」と題してお話をいただきました。1,500名の聴講者があり、好評を得ました。大学講義では、安田女子大学にて単位互換「ボランティア活動」を行いました。更に、昨年度よりNPO法人ビピオ子どもセンターとの連携で開始した「スタートラインプロジェクト」事業は、支援活動を充実させました。

科学技術振興関係

① 研究助成

機械、電子・情報、材料の3分野を対象に25件3,000万円の助成を行いました。(国内/公募)

また本年度より、マツダ研究助成選考委員奨励賞として4件採択し、副賞として50万円を助成しました。(4件200万円)

② 事業助成

研究者による小中高の生徒を対象とした「科学体験」事業に15件200万円の助成を行いました。(中国地方/公募)

③ 科学わくわくプロジェクト

教科書にとらわれない高度な科学体験により、小中高生の「科学するところ」を養うことを目指す「科学わくわくプロジェクト」を、広島大学と連携して実施しました。(連携事業/参加者公募)

青少年健全育成関係

① 研究助成

青少年健全育成に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究5件に計400万円の助成をしました。(国内/公募)

② 市民活動支援

青少年の心豊かな成長の一助となる地域に密着した民間の非営利活動39件に計1000万円の支援をしました。(広島県・山口県/公募)

③ 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、(公財)広島市文化財団との共催で、3施設で実施計画しましたが、8月20日の広島土砂災害の影響で、1施設が中止となり、2施設で実施しました。(連携事業/参加者公募)

④ スタートラインプロジェクト

被虐待児等の自立を支援することを目的に、NPO法人ビピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、広報活動の充実を支援する事業を実施しました。(連携事業/公募)

⑤ 講演会の開催

当財団の活動主旨を広く知っていただく活動の一つとして、美輪 明宏氏を講師に迎え実施しました。

⑥ 大学寄付講義

安田女子大学にて、単位互換「ボランティア活動」の講義を行いました。

事業の概要を以下に記します。

I. 科学技術振興に関する活動の概要

I-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第30回(2014年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

天然の資源に恵まれない我が国においては、科学技術の育成・振興が重要な課題です。このために、主として科学技術に関する学術研究に対して助成し、振興をはかることにより、調和のとれた科学技術の向上をめざし、文化への貢献ならびに広く社会の発展に寄与することを目的としています。

(b) 助成対象

現在ならびに将来にわたって解決が求められている科学技術に関する基礎研究および応用研究、特に、①機械、②電子・情報、③材料の3分野に係わる先進的・独創的な研究。

- | | |
|--------------------|------------------|
| (c) 募集方法 | 公募 |
| (d) 助成金総額 | 3,000万円 |
| (e) 助成件数 | 25件 (1件あたり120万円) |
| (f) 助成期間 | 1年または2年 |
| (g) 募集期間 | 2014年4月18日～5月30日 |
| (h) マツダ研究助成選考委員奨励賞 | |

マツダ研究助成対象の中から特に優れた研究に対して授与する。

- | | |
|--------------|----------|
| ① 副賞(追加助成金) | 50万円/件 |
| ② 追加助成金総額・件数 | 200万円、4件 |

(2) 応募状況

締切りまでに合計401件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|------------------|---------|------------|
| (a) 地域別 | ・ 中部以東 | 220件 (55%) |
| | ・ 関西以西 | 181件 (45%) |
| (b) 分野別 | ・ 機械 | 91件 (23%) |
| | ・ 電子・情報 | 93件 (23%) |
| | ・ 材料 | 217件 (54%) |
| (c) 若手研究者(40才以下) | | 253件 (63%) |

(3) 助成対象者の選出

科学技術振興関係選考委員会(7月25日、26日開催)において慎重に審査された結果、助成候補として25件、研究助成選考委員奨励賞候補として4件が選出され、第18回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成贈呈書の贈呈

2014年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移－科学技術振興関係－

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第30回) 2014年度	第29回 2013年度	第28回 2012年度
応募件数(件)	401	304	289
助成件数(件)	25	25	24
助成比率(%)	6.2	8.2	8.3
助成金総額(万円)	3,200	2,800	2,800

(地域別状況)

地域	2014年度		2013年度		2012年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東(件)	220	12	144	11	156	13
近畿(件)	79	5	78	6	68	4
中国・四国(件)	55	4	49	4	39	4
九州・沖縄(件)	47	4	33	4	26	3
合計(件)	401	25	304	25	289	24

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数

(分野別状況)

分野	2014年度		2013年度		2012年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
機械(件)	91	6(2)	75	6(5)	64	5(2)
電子・情報(件)	93	6(1)	70	6(2)	66	5(2)
化学系材料(件)	114	7(4)	85	7(4)	77	7(6)
物理系材料(件)	103	6(5)	74	6(5)	82	7(3)
合計(件)	401	25(12)	304	25(16)	289	24(13)

左側数字：応募件数、右側数字：助成件数、分類は審査時
()内の数値は循環・省資源に寄与する研究で、内数

3. 第30回(2014年度)マツダ研究助成一覧 —科学技術振興関係—

助成対象研究の概要は、以下のとおりです

◇印付きは循環・省資源に係わる研究

S印付きは奨励賞受賞

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【機械】		
レアアース磁石を用いない使い捨て磁気浮上遠心血液ポンプ用ベアリングレスモータの研究 ◇	土方 亘 東京工業大学精密工学研究所助教	120
使い捨て磁気浮上遠心血液ポンプは、インペラの安定浮上のために、使い捨て部にレアアース磁石を用いて高い支持剛性を実現しているが、コスト面や元素戦略的観点からは望ましくない。そこで本研究は、レアアース磁石を用いない磁気浮上血液ポンプの実現を目的とする。具体的には、モータと磁気浮上の機能を一体化したベアリングレスモータを用い、回転中のモータ電流による支持剛性向上、および血液の減衰効果を考慮することで、レアアース磁石を用いずに安定浮上可能な磁気浮上遠心血液ポンプを提案し、評価を行う。		
大気圧プラズマにおけるガス加熱現象の解明と反応シミュレーションモデルの確立 ◇	小室 淳史 東北大学大学院工学研究科助教	120
大気圧プラズマは次世代の環境改善技術や燃焼支援技術として、世界中から注目を集め、精力的に技術開発が行われている。しかしながら、プラズマの反応過程の多くは未解明であり、技術開発は理論ではなく経験に頼らざるを得ない。特に、大気圧プラズマによる加熱現象は、技術の安全性やエネルギー効率に大きく関与するために、無視することは出来ない。これに対し本研究は、大気圧プラズマで生じる様々な現象を正確に再現できるモデルを確立し、大気圧プラズマ技術の発展を加速させる原動力となることを目的とする。		
マイクロ流体デバイスの新規動作原理と微量血液分析デバイスの研究	浮田 芳昭 山梨大学大学院医学工学総合研究部助教	S 170
本研究では、自己制御型マイクロ流体デバイスを原理とする、超小型・安価・高精度な微量血液分析デバイスを実現する。血液分析では血球分離、免疫反応、反応器洗浄、酵素反応などで、何度もピペットによる操作が必要であった。血液分析を自動的に分析できるシステムが実用化されれば、在宅で血液検査を実施でき、通院が不要になり、健康寿命の増大や医療費の圧縮が実現できる。即ち、本課題では上記分析工程を自動実行する超微量分析デバイスを実現する。		
その場観察法を用いたレーザ溶接の凝固割れ感受性評価法の確立と凝固割れ発生防止技術の開発	門井 浩太 広島大学大学院工学研究院助教	120
構造物の高品質化に伴う材料の適材適所化やレーザ溶接の適用が図られている、これに伴い、異種材料溶接の増加や高速度化により、溶接中の凝固割れはより発生しやすくなるとされている。本研究では、その場観察を適用したレーザ溶接中の凝固割れ感受性評価法の確立を目的とする。割れ発生時の温度やひずみを高時間・空間分解能で測定し、高精度な高温延性特性を取得する。これを基に、冷却速度の高速度化や化学組成が凝固割れ感受性に及ぼす影響を調査し、割れ発生防止に有効な条件範囲を導出する。		
世界最小を目指した小児用人工心臓のための超小型ダブルステータ5軸制御磁気浮上モータの研究開発	長 真啓 茨城大学工学部助教	120
小型、高耐久、かつ溶血、血栓を惹き起こさない小児用人工心臓は存在せず、この現状を打破できる工学技術として磁気浮上モータが着目される。本研究では、二つのモータステータのみで浮上ロータ5軸(x, y, z, θX , θY)制御可能な磁気浮上モータを新規に考案した。本モータを外径20 mm、高さ30 mm、体積10 cc以下に小型化できれば、世界最小、世界初の磁気浮上型小児用人工心臓を実現できる。三次元磁場解析、数値流体解析、ロータダイナミクス解析を活用し、5軸制御磁気浮上モータと人工心臓の超小型化に挑戦する。		
皮膚を有する骨格筋アクチュエータの構築	森本 雄矢 東京大学生産技術研究所助教	120
本研究では、骨格筋を覆うコラーゲン層上に皮膚を配置し、空气中で長期間駆動可能な骨格筋アクチュエータの構築を目指す。生体外で構築された骨格筋は創薬や移植医療分野だけでなく、高い質量当たりの出力とエネルギー効率から工学分野での駆動素子としての応用が期待されている。しかし、作製された骨格筋は液中でのみ収縮運動が可能であり、空气中では駆動できなかつた。皮膚で骨格筋を覆うことで乾燥を防止し、空气中での骨格筋の長期駆動が実現可能なことを示す。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【電子・情報】		
スピーチプライバシー保護システムのブートストラップを利用したオンラインマスクー合成法	小林 洋介 都城工業高等専門学校助教	120
<p>病院やオフィスのオープンスペース化により、音声伝搬を遮る壁がなくなり、個人情報や機密情報を含む音声会話の相手以外にも聴こえやすくなっている。このため、会話のスピーチプライバシーを保護する必要がある。本研究では、会話音声から合成したマスクー(聴取妨害音)を放射して会話内容を秘匿するシステムのマスクー合成手法を提案する。提案法は、発話者本人の音声をリアルタイムにフィードバックする合成法であり、従来手法よりも小さな音量でプライバシー保護効果が高いと考えられ、住空間・公共空間における音環境改善に貢献する。</p>		
ソフト化学プロセスによる単原子層デバイスの形成と超高機能性の実証	川江 健 金沢大学理工研究域准教授	120
<p>本研究の目的は、次世代の半導体材料として期待されるモノレイヤーMoS₂に対し、そのポテンシャルを最大限に発揮できるヘテロデバイス構造の創製および超高機能性を実証することである。</p> <p>具体的には、Ca₂Nb₃O₁₀(CNO)ナノシートをゲート絶縁膜としたCNO/MoS₂ヘテロMISFETをソフト化学プロセスで作製し、極限的な低次元構造である為に脆弱というモノレイヤーMoS₂の本質的課題を克服した革新デバイス構造を実現する。さらに、CNOをテンプレート層とした強誘電体ゲートFET形成まで発展させ、巨大分極誘起による広範囲なキャリア変調に基づいたモノレイヤーMoS₂の超高機能性を実証する。</p>		
多重リレー協調通信における最適パケット分割と適応変調を用いた高速・高品質化に関する研究	井田 悠太 山口大学大学院理工学研究科助教	S 170
<p>近年の通信は高品質大容量データを用いたサービスを実現するため高速・高品質化が要求されている。この要求を満たすために、中継局を用いて複数の経路を利用する協調通信が提案されている。これまでに申請者は協調通信の更なる高品質なシステムを実現するために最小限のフィードバック情報を用いた最適パケット分割法を提案した。一方で、この方法は高速化の点で不十分である。本研究では更なる高速化を実現するため上記フィードバック情報を用いた適応変調方式を提案し、その有効性を実証する。</p>		
アナログ集積回路(IC)の“検証”に着目した技術者教育手法に関する研究	石川 洋平 有明工業高等専門学校准教授	120
<p>携帯電話やパソコンなどに代表される身の回りの電化製品の中で使われている集積回路(IC)は高機能化・高性能化しており我々の生活を豊かにしている。一方、微細化が進み昔のように箱を開けて中身を検証する事が難しくなっておりブラックボックス化が急速に進んでいる。教育の現場においてもブラックボックス化は大きな問題となっており日本のマイクロなもののづくりの根幹を揺るがす可能性がある。よって、本研究ではアナログICを題材とした検証手法に着目してその教育効果について検討を行う。</p>		
FPGAアクセラレータの性能と開発容易性を両立するマルチパラダイム設計フレームワーク	高前田 伸也 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科助教	120
<p>近年の計算機システムでは、回路構成の変更可能な柔らかいLSIであるFPGAによるアクセラレータが用いられるようになってきた。本研究では、演算回路部分を細粒度に記述するHDLをベースとしたパイプライン記述言語と、システム全体の粗粒度のデータの流れを記述する制御記述言語の2つを併せ持つ、マルチパラダイムなFPGAアクセラレータ設計フレームワークを開発する。2つの言語パラダイムを要件に応じて使い分けることにより、FPGAアクセラレータ性能と開発コストの低減を両立する。</p>		
随意性眼球運動と不随意性眼球運動の比較による眼球運動の意図に関する生体信号解析	船瀬 新王 名古屋工業大学大学院工学研究科助教	120
<p>従来研究にて単純に眼球運動を行う前の脳波変動を明らかにしたが、眼球運動にはすでに提示されている視覚指標に対して自分の明確な意図によって行う眼球運動(随意性眼球運動)と視覚指標の提示に反応して行う眼球運動(不随意性眼球運動)がある。よって、眼球運動を予測するためにはこの随意性眼球運動と不随意性眼球運動を脳波から分類する必要がある。</p> <p>そこで本申請においては、随意性の眼球運動時の脳波を計測し、随意性の眼球運動に着目しその脳波の性質を明らかにし、脳内情報処理機構の解明を行う。</p>		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【化学系材料】		
アニオンドーブによりSi員環構造を制御した新規水素分離膜の創製	金指 正言 広島大学大学院工学研究院助教	120
水素を省エネルギー的に生産・分離回収するための水蒸気改質膜型反応器に関する研究が世界的に行われている。多孔性シリカ膜は、水素分離膜として有望であるが、水熱雰囲気での水素選択透過性が著しく低下する。水素選択透過性を向上させるためには、水素が透過しているシリカネットワーク構造をルースに制御する必要があり、アニオンドーブによるSi員環構造制御を提案する。本研究では、アニオンドーブによりシリカネットワークチューニングした新規水素分離膜を作製し、水素透過特性を評価することを目的とする。		
次世代二次電池用電解質のための超分子イオン液体ゲルの開発 ◇	丸山 達生 神戸大学大学院工学研究科准教授	120
本研究では、電池等の次世代電解質材料として期待されているイオン液体をゲル化するゲル化剤分子の開発を行う。ここでは、適切に分子設計した超分子ゲル化剤を用いることによって、ゲル化後も高い導電性を維持することを目指す。本研究では、電池実用上の大きな問題となっている電解質溶液の液漏れ・爆発性を、イオン液体のゲル化により防止する。ここでは、申請者がこれまで取り組んできた超分子ゲル化剤を用い、金属イオンの溶解性・運動性、および高い導電性を維持したまま固体電解質化することを目指す。		
350℃耐熱!初めて『結晶』で創る新奇フレキシブル透明プラスチックフィルムの開発に資する、高分子透明化技術の新提案 ◇	藤森 厚裕 埼玉大学大学院理工学研究科准教授	S 170
結晶性高分子は、結晶/非晶の混在状態である。この界面における透過光屈折が著しい為、高分子結晶が光伝送材料となった例は皆無であり、これが世に存在するプラスチック光伝送体の耐熱性欠如の最大要因とされる。本課題は世界で初めて「高密度非晶」形成に基づく、300℃耐熱の“結晶性”高分子フレキシブル透明材開発を行う。透明結晶性高分子は事故による人命保全に繋がる、車体軽量化に資する耐熱性光ファイバ構築も現実化する。加えて、ナノ粒子複合化に基づく耐熱化の革新向上とバリア能発現の可能性を探る		
分子配線を指向した光応答性自己集積材料の開発	中嶋 琢也 奈良先端科学技術大学院大学 物質創成科学研究科准教授	120
新原理に基づく光活性種生成反応の開発により、フォトレジストなどの光プロセスの根幹をなす光化学反応の効率化、さらに、次世代の分子配線技術への展開を目指す。光化学的に明瞭なメカニズム、高い反応効率を有し、単一の光生成物を与える6π電子環状反応に着目し、その後続反応として酸発生反応を設計する。既存のシステムに搭載可能な光酸発生剤の開発に加え、光酸発生により分子の集積能が誘起される光応答型自己集積材料の提案を通じて、光による分子操作技術の発展に貢献する。		
らせん状多糖によるハイブリッド包接超分子マテリアルの開発 ◇	田中 知成 京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科助教	120
持続可能な社会の構築に向けて、再生可能な植物由来素材から生産されるバイオベースマテリアルのひとつとして多糖類が注目を集めている。本研究では多糖類と合成高分子を酵素的に融合した新しい多糖超分子マテリアルを創製することを目的とする。具体的には、ホスホリラーゼを触媒とする酵素的多糖合成反応を用いて、アミロース分子のらせん内部に合成高分子が包接されて形成する包接錯体の集合体(超分子ポリマー)を合成し、得られた超分子ポリマーのマテリアルとしての利用を図る。		
アルカリ土類フェライト超微粒子の創製と微細構造制御及びナノコンポジット光触媒材料への応用	小畑 賢次 北九州工業高等専門学校准教授	120
資源量が豊富でエコ・フレンドリーな元素群で構成されるアルカリ土類フェライトは、グリーンマテリアルの有力候補であるが、通常、固相反応法で調製されている。このため、粗大化した比表面積の小さい粒子しか得られていない。本申請では、高比表面積を持つアルカリ土類フェライト粉体を省エネ合成するために、(1)熱処理温度や時間を低減した合成プロセスの開発、(2)不純物添加による微細構造制御法の開発、(3)ナノコンポジット化による高性能光触媒の創製を目的とする。		
構造制御されたホウ素含有グラフェンの合成と解析 ◇	山田 泰弘 千葉大学工学研究科助教	120
グラフェンの一番の欠点はその耐酸化性の低さにある。酸化はグラフェンのガス化を引き起こし、種々の用途の寿命を著しく低下させる。この耐酸化性能の劇的向上には、単一の含ホウ素官能基の導入が求められている。単一の含ホウ素グラフェンを合成するためには、合成技術だけでなく高い解析能力も要求される。本研究では、グラフェンの構造解析には欠かせないX線光電子分光分析(XPS)と量子化学計算を用いて含ホウ素グラフェンのXPS解析を徹底的に行い、実際に単一の含ホウ素官能基が導入されたグラフェンの合成を行う。		

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額 (万円)
【物理系材料】		
高周波磁気抵抗素子を用いた磁場センサーの研究	三輪 真嗣 大阪大学基礎工学研究科助教	S 170
<p>電子の電荷と同時にスピンの自由度を利用するスピントロニクスには大きな期待が寄せられている。具体的には磁気抵抗素子から構成される磁場センサーがハードディスクドライブの磁気ヘッドに既に応用されており、更にはランダムアクセスメモリの開発も産業界を中心に精力的に行われている。本研究では従来の線形現象と異なり、提案者らが開発してきた非線形現象を用いる高周波磁気抵抗素子による高感度磁場センサーの検討を行う。実験および理論検討により従来の磁場センサーとの優位性を明確にする。</p>		
発光材料としての「イガグリ状」シリコンマイクロ粒子のフルカラー発光化・高輝度化・長寿命化	◇ 稲澤 晋 東京農工大学大学院工学研究院准教授	120
<p>申請者が独自に作製するイガグリ状のシリコンマイクロ粒子は、紫外線を当てると赤く光る。本研究では、この粒子を改良して、フルカラー発光・高輝度・長寿命の3つを兼ね備えた無機発光材料を開発する。イガグリ状粒子は、SiCl₄亜鉛還元反応で生成するシリコンマイクロ粒子を化学的に削る(エッチングする)と得られる。エッチングの程度や、イガグリ形状を適切に制御して、発光色のフルカラー化と高輝度化を行う。更には、粒子表面に有機分子を修飾して、酸化による輝度の減衰を防ぎ、長寿命化を図る。地球上に豊富に存在するケイ素のみで出来ている、「なじみ」があるシリコンで、高機能の発光材料を開発し、省資源に寄与する。</p>		
波長選択性光吸収メタマテリアルを用いた高効率放射冷却	◇ 石川 篤 岡山大学大学院自然科学研究科助教	120
<p>金属ナノ構造でできた人工光学材料“メタマテリアル”を用いると、従来にない特異な光学特性が実現できる。本研究では、所望の波長の光のみを選択的に吸収し、それ以外は完全に反射する、波長選択性光吸収メタマテリアルを創製する。光の吸収と放射は等価であることから、本手法を用いると所望の波長の放射を増大できる。この原理を応用し、光吸収・発熱の原因となる可視光は反射しつつ、熱放射を担う赤外光を高効率に放射することで、太陽光下においても非電化で自己冷却できる放射冷却デバイスへの応用に取り組む。</p>		
ダイヤモンド状炭素(DLC)膜の大気圧局所的コーティングを実現する新規プラズマ・ペンの開発	◇ 吉木 宏之 鶴岡工業高等専門学校教授	120
<p>ダイヤモンド状炭素(DLC)膜は潤滑性、高耐磨耗性、耐食性に優れ多くの機械部品のコーティング材として用いられている。本研究では、注射針にガスを導入して高周波(RF)電圧を印加して注射針先端から大気中にプラズマ流を生成する新規『プラズマ・ペン』を用いて、CH₄等の炭化水素ガスを原料とした大気圧プラズマ支援化学気相成長法によりDLC膜を局所的コーティング、または2次元パターンニングするプロセス条件の確立に向け、RF電力、DCバイアス等の成膜条件とDLC組成・構造の関連を解明する。</p>		
ITO代替・透明導電性酸化物(TCO)ナノ粒子の液相合成とインク化	◇ 村松 淳司 東北大学多元物質科学研究所教授	120
<p>タブレットPC、スマートフォンなどフラットパネルディスプレイをはじめとする液晶ディスプレイやタッチパネル等を使用される最先端材料である、透明導電性酸化物(TCO)材料について、ITO(インジウムスズ酸化物)代替物質となる、ATO(アンチモンドープ酸化スズ)、GZO(ガリウムドープ酸化亜鉛)、Nb-TiO₂(ニオブドープアナターズ型チタニア)について、サイズを10~50nm程度に制御し、サイズ分布の標準偏差を10%程度まで揃えた、単分散ナノ粒子を、その形態を精密に制御し液相で合成すること、さらにそのナノインク化を本研究の目的とする。</p>		
超伝導材料・線材開発のキーテクノロジーとなるハイブリッド顕微法の確立	◇ 東川 甲平 九州大学大学院 システム情報科学研究科准教授	120
<p>本研究の目的は、超伝導材料・線材開発のキーテクノロジーとなるハイブリッド顕微法を確立である。局所的な超伝導特性をμmオーダーで可視化できる磁気顕微法を開発し、電子顕微鏡による微細組織構造観察を組み合わせることによって、超伝導材料・線材の特性制限因子を直接的に解明できる基盤的評価スキームを確立する。本研究が成功すれば、超伝導材料・線材の作製プロセスに決定的なフィードバックを与えることが初めて可能となり、様々な超伝導応用に大きなブレークスルーをもたらすものと期待できる。</p>		
合計	25件	3,200万円

第30回(2014年度)マツダ研究助成選考委員奨励賞一覧 —科学技術振興関係—

マツダ研究助成選考委員奨励賞は、マツダ財団設立30周年を記念して2014年度より新設されました。科学技術振興関係の助成対象の中から、若手研究者を主たる対象とし、選考委員会が特に優れた研究であるとみなした4件の研究に対して授与されるもので、副賞として研究助成金50万円が追加助成されます。

(註)研究代表者役職は応募時

分野	研究題目および選考理由	研究代表者
機械	マイクロ流体デバイスの新規動作原理と微量血液分析デバイスの研究	浮田 芳昭 山梨大学大学院医学工学総合研究部助教
	<p>本研究は、流体の自己制御性を利用することで安価に血液分析デバイスを実現するものである。超小型・安価・高精度な微量血液分析デバイスであり、血液分析では血球分離、免疫反応、反応器洗浄、酵素反応などでは、何度もピペットによる操作が必要であったが、これらの血液分析を自動的に分析できるシステムが実現する。研究構想も論理的で実現に向けた計画も具体性が高い。この技術が完成した際の適応範囲の広さや社会貢献度は群を抜いていると考えられ、この研究を奨励賞とする。</p>	
電子・情報	多重リレー協調通信における最適パケット分割と適応変調を用いた高速・高品質化に関する研究	井田 悠太 山口大学大学院理工学研究科助教
	<p>本研究は 近年の通信の大容量データ化と 高速・高品質を両立するための通信技術の高度化が求められている中 複数の中継局を利用した協調通信における負荷を最小にし 高速化を実現する新しい方式を提案するものであり 将来の社会的な貢献が期待できる研究であるため、ここに奨励賞を贈呈する。</p>	
化学系材料	350℃耐熱!初めて『結晶』で創る新奇フレキシブル透明プラスチックフィルムの開発に資する、高分子透明化技術の新提案	藤森 厚裕 埼玉大学大学院理工学研究科准教授
	<p>本研究は、耐熱性に優れるプラスチック光伝送体を、世界で初めて「高密度非晶」形成に基づく、300℃耐熱の“結晶性”分子フレキシブル透明材創出により開発するものである。本研究により、燃費・安全性向上に繋がる車体軽量化に資する耐熱性光ファイバ構築も現実化する可能性がある。加えて、自動車はもとより、工業製品の多くの領域に展開可能な技術であり、大きなブレイクスルーが期待できる夢のある研究である。よって、奨励賞に値する。</p>	
物理系材料	高周波磁気抵抗素子を用いた磁場センサーの研究	三輪 真嗣 大阪大学基礎工学研究科助教
	<p>本研究は 世界的にも電子の電荷と同時にスピンの自由度を利用するスピントロニクスには大きな期待が寄せられている中 従来の線形現象と異なり 非線形現象を採用した独創的な高周波磁気抵抗素子による高感度磁場センサーの研究を行うものである この研究から得られる成果は生体内現象の解明、医療分野等の広範囲の分野に波及する可能性があり 将来の社会的な貢献が期待できる研究であるため ここに奨励賞を贈呈する</p>	

I - 2. 事業助成

1. 募集・応募・選出状況

第30回（2014年度）は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

学会・研究機関等が中国地方で開催する小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する研究会等で、科学技術振興に有意義と認められるものに対し、その費用の一部もしくは全額を助成します。

(b) 助成対象

中国地方の大学（含、附属研究機関）、高等専門学校に所属（常勤）し、申請事業の開催責任者または出版物の主なる著者によって、2014年6月から2015年5月に実施される

- ・ 研究者による「科学体験」事業の開催
- ・ 学会・シンポジウム等の「科学体験」推進に関する研究会の開催
- ・ 「科学体験」に関する研究成果出版物の刊行、教材等の試作
- ・ その他、「科学体験」に関し財団が有意義と認めるもの

(c) 募集方法

公募

(d) 対象地域

中国地方

(e) 助成金総額

200万円

(f) 助成件数

10～15件

(g) 1件当たり助成金額

10～20万円

(h) 助成期間

2014年6月から2015年5月

(i) 募集期間

2014年4月1日～5月9日

(2) 応募状況

本年度は、30件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別

- | | | | |
|------|-----|------|----|
| ・鳥取県 | 1件 | ・広島県 | 8件 |
| ・島根県 | 11件 | ・山口県 | 7件 |
| ・岡山県 | 3件 | | |

(b) 分野別

- | | |
|---------------------|-----|
| (1) 体験事業の開催 | 29件 |
| (2) 研究会等の開催 | 0件 |
| (3) 成果出版物の発刊・教材等の試作 | 0件 |
| (4) その他 | 1件 |

(c) 若手研究者（40才以下）

11件（37%）

(3) 助成対象者の選出

マツダ事業助成－科学技術振興関係－選考委員会（5月23日）において慎重に審査された結果、助成候補として15件が選出され、第16回理事会（6月3日開催）において報告されました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第30回) 2014年度	第29回 2013年度	第28回 2012年度
応募件数 (件)	30	27	25
助成件数 (件)	15	10	10
助成比率 (%)	50	37	40
助成金総額 (万円)	200	100	100

(地域別状況)

地 域	2014年度		2013年度		2012年度	
	件数	件数	件数	件数	件数	件数
鳥 取 県 (件)	1	1	0	0	0	0
島 根 県 (件)	11	2	10	1	11	2
岡 山 県 (件)	3	1	4	1	3	2
広 島 県 (件)	8	7	5	4	5	4
山 口 県 (件)	7	4	8	4	6	2
合 計 (件)	30	15	27	10	25	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

(分野別状況)

分 野	2014年度		2013年度		2012年度	
	件数	件数	件数	件数	件数	件数
(1) 体験事業の開催 (件)	29	15	26	10	24	9
(2) 研究会等の開催 (件)	0	0	0	0	0	0
(3) 成果出版物の発刊 ・教材等の試作 (件)	0	0	1	0	1	1
(4) その他 (件)	1	0	0	0	0	0
合 計 (件)	30	15	27	10	25	10

(左側数字：応募件数、右側数字：助成件数)

3. 第30回(2014年度)マツダ事業助成一覧 ー科学技術振興関係ー

事業名	開催地	事業責任者 (役職は応募時)	実施期間	助成金額 (万円)
雲南市わくわくサイエンスクラブ 参加者(総人数)191名 [内、147名]	雲南市	栢野 彰秀 島根大学教育学部教授	2014/6/21 ~ 2015/3/21	15
第5回山陽小野田市かがく博覧会 ～小学校、中学校、高等学校、大学、企業が集う 科学の祭典～ 参加者(総人数)3800名 [内、3700名] 発表:1	山陽小野田市	森田 廣 山口東京理科大学工学部教授	2014/9/27 ~ 2014/9/28	14
Scratchによる初級プログラミングと組込み電子機器の体験講座 参加者(総人数)21名 [内、15名] 公開講座:1	周南市	山田 健仁 徳山工業高等専門学校教授	2014/8/23 ~ 2014/8/23	12
小・中学生のためのものづくり教室 ーロボットアームを製作してみようー 参加者(総人数)27名 [内、18名]	東広島市	岡 正人 近畿大学工学部 ロボティクス学科長・教授	2014/8/8 ~ 2014/8/8	12
コズミック・ラボ:専門家のガイドで、1年を通して宇宙と科学を身近に体感していただきます。 参加者(総人数)40名 [内、20名] 講演:12	広島市	堀江 宗巨 子どもキャリア塾代表	2014/6/29 ~ 2015/5/31	15
オリジナルロボットを作って全国ロボットコンテストに出場しよう 参加者(総人数)14名 [内、14名]	出雲市	箕田 充志 松江工業高等専門学校教授	2014/9/21 ~ 2014/12/14	15
岡山大学農学部ジュニア講座「“ウシ”にふれよう!～まきばで食といのちを学ぶ～」 参加者(総人数)40名 [内、30名] 講演:3	岡山市	舟橋 弘晃 岡山大学大学院 環境生命科学研究所教授	2014/9/27 ~ 2014/10/25	15
山口大学理学部サイエンスワールド2014 ～不思議と驚きのサイエンス・ショー～ 参加者(総人数)1000名 [内、600名] 発表:31	山口市	安達 健太 山口大学大学院理工学研究科准教授	2014/10/19 ~ 2014/10/19	15
もの育講座「倒れない電気コマを作ろう!」 参加者(総人数)106名 [内、102名] 発表:1	呉市、大崎上島町	今井 慎一 広島商船高等専門学校講師	2014/7/27 ~ 2014/10/19	14
広島国際大学保健医療学部 子ども向け科学体験講座(夏休み実験講座) 参加者(総人数)400名 [内、400名] 演示実験:1	東広島市	向田 一郎 広島国際大学保健医療学部准教授	2014/7/1 ~ 2014/9/30	12
サイエンスショーと科学・工作教室 参加者(総人数)208名 [内、166名]	呉市	山脇 正雄 呉工業高等専門学校 協働研究センター長	2014/6/28 ~ 2014/12/20	15
何ができるかお楽しみ!不用品を持ってきて作ろう、MYインテリア雑貨 参加者(総人数)112名 [内、82名]	米子市	上田 輝美 国立米子工業高等専門学校技術専門員	2014/6/1 ~ 2014/12/20	11
プラズマを学んで触れて、プラズマを使ったマジックを体験しよう! 参加者(総人数)20名 [内、17名]	山口県大島郡	中村 翼 大島商船高等専門学校講師	2014/7/1 ~ 2014/9/30	12
バイオ・キッズ in BINGO(備後)14—福山大学生命工学部バイオサイエンス公開実験— 参加者(総人数)120名 [内、80名] 講演:6	福山市	高村 克美 福山大学生命工学部教授	2014/7/26 ~ 2014/7/26	10
科学研究をはじめる前に(大学生とともに)DNA鑑定を体験しながら研究者倫理を実感し、実践する講座) 参加者(総人数)40名 [内、32名] 講演:3	東広島市	西堀 正英 広島大学生物生産学部広島大学 生物生産学部准教授コース担当教員	2014/7/1 ~ 2014/11/3	13
合計		15件		200万円

I-3. 科学わくわくプロジェクト

(1) 内容

「科学わくわくプロジェクト」は、マツダ財団と広島大学が連携して青少年の健全育成と科学技術の振興を目指して実施する事業です。次の時代を担う小学生・中学生・高校生に、考えること、学ぶことにわくわくする体験、正解のない問題に取り組むブラックボックスをこじ開けてみる体験といった機会を継続的に提供することにより、科学する心を育てることを目的としています。

「科学わくわくプロジェクト」は、次の特徴を有しています。

- ・現場の教員の議論により生まれたプロジェクトである。
- ・財団と大学の連携事業である。
- ・多様な事業で構成される複合的な事業である。
- ・教育効果の評価を通じて学校教育への波及効果も期待される。

(2) 連携先

広島大学科学わくわくプロジェクト研究センター

研究代表者：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授

(3) 主要事業

①サイエンスレクチャー（中高生を対象とした出張・出前型講座；要請により可能な範囲で社会人等も対象とする）

第1回：2014年5月15日開催（広島市こども文化科学館）

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 守口 和基 講師
- ・テーマ：「みんなの知らないバクテリアのふしぎな話」、社会人3名

第2回：2014年11月21日開催（安田女子高等学校）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「放射能・放射線入門」、高校生（40名×2クラス）

第3回：2014年11月21日開催（安田女子高等学校）

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 坂本 尚昭 准教授
- ・テーマ：「学問への入り口」、高校生（30名×2クラス）

第4回：2015年3月4日開催（広島大学東広島天文台）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 植村 誠 准教授
- ・テーマ：「星の誕生と進化」、中高生対象（10名）、保護者・教員5名

第5回：2015年3月14日開催（広島市こども文化科学館）

- ・講師：広島大学大学院理学研究科 坂本 尚昭 准教授
- ・テーマ：「研究者から聞くとっておきのウニの話」、社会人5名

②ジュニア科学塾 ～年間テーマ「エネルギー」

第1回：2014年5月18日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 竹下 俊治 教授
- ・テーマ：「生物におけるエネルギーの変換と利用」、中学生対象（24名）

第2回：2014年6月15日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 梅田 貴士 准教授
- ・テーマ：「ガウス加速器におけるエネルギー保存」、中学生対象（22名）

第3回：2014年8月5日開催

- ・講師：マツダ（株）技術研究所研究員 今井 一雄氏・川野 盛樹氏
（公財）マツダ財団 魚谷 滋己氏
- ・テーマ：「自動車を走らせるエネルギー」、中学生対象（18名）

第4回：2014年10月19日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 網本 貴一 准教授
- ・テーマ：「化学反応で生み出すエネルギー」、中学生対象（22名）

第5回：2014年12月21日開催

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 吉富 健一 講師
- ・テーマ：「太陽エネルギーと天気の変化」、中学生対象（17名）

第6回：2015年3月1日開催（オプション講義）

- ・講師：広島大学宇宙科学センター 大杉 節 特任教授
- ・テーマ：「放射能・放射線に強くなろう」、中学生対象（21名）

③ 小学校理科ひろば：

- ・講師：広島大学大学院教育学研究科 林 武広 教授 他
- ・テーマ：授業実践講座または模擬授業
- ・今年度実施：広島市内・広島県内の小学校 17校53学級

広島市教育委員会と連携する（実施校は、広島市教育委員会が希望校を募り、その後の調整と協議によって選定する）。

学校から依頼があれば、可能な範囲でそれに応じる。

(4) 実施額 399万円

Ⅱ. 青少年健全育成に関する活動の概要

Ⅱ-1. 研究助成

1. 募集・応募・選出状況

第30回(2014年度)は、以下により実施しました。

(1) 募集

次の内容で募集を行いました。

(a) 助成趣旨

工業化社会、情報化社会の著しい進展による社会環境の変化は、国民の社会生活に多様な影響を及ぼしています。中でも青少年の健全な心身の発達を阻む面のあることを認めざるをえません。今日生涯の各段階において、人間形成上あるいは社会生活上、絶えず自ら学習することの必要が叫ばれ、そのための学習基盤の整備充実を進めることが求められておりますが、中でも青少年段階におけるそれは重要であると考えます。

こうした青少年の健全な育成、あるいは青少年期における自らの学習への支援を通して、心豊かに生きることの出来る社会の実現を願い、そのためのすぐれた研究に対し、その一助として費用の一部もしくは全部を助成します。

(b) 助成対象

本財団の設立趣旨である「青少年の健全育成」に係る市民活動の活性化に役立つ実践的な研究を対象とします。

対象研究分野：①青少年をとりまく環境 ②コミュニティづくり ③ボランティア育成 ④科学体験

⑤前各号に類する分野

(c) 募集方法	公募
(d) 助成金総額	400万円
(e) 助成件数	4～5件
(f) 助成期間	1年または2年
(g) 募集期間	2014年4月18日～6月30日

(2) 応募状況

締め切りまでに36件の助成申請書を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

(a) 地域別	・中部以東	15件(42%)
	・関西以西	21件(58%)
(b) 分野別	・青少年をとりまく環境	21件(58%)
	・コミュニティづくり	2件(6%)
	・ボランティア育成	2件(6%)
	・科学体験	6件(16%)
	・前各号に類する分野	5件(14%)

(3) 助成対象の選出

選考委員会(7月31日)において慎重審議の結果、助成候補として5件が選出され、第18回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 助成金贈呈書の贈呈

2014年10月から11月にかけて申請代表者を訪問し、贈呈書を贈りました。

2. 助成件数の推移

本年度を含む3年間の助成件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および助成件数)

	本年度(第30回) 2014年度	第29回 2013年度	第28回 2012年度
応募件数 (件)	36	26	33
助成件数 (件)	5	5	5
助成比率 (%)	14	19	15
助成金総額 (万円)	400	400	400

(地域別状況)

地 域	2014年度		2013年度		2012年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
中部以東 (件)	15	2	14	3	13	1
近畿 (件)	6	1	7	1	8	1
中国・四国 (件)	11	1	4	1	10	2
九州・沖縄 (件)	4	1	1	0	2	1
合計 (件)	36	5	26	5	33	5

(左側数字:応募件数, 右側数字:助成件数)

(分野別状況)

分 野	2014年度		2013年度		2012年度	
	左側	右側	左側	右側	左側	右側
青少年をとりまく環境 (件)	21	3	15	5	18	1
コミュニティづくり (件)	2	1	2	0	3	1
ボランティア育成 (件)	2	0	2	0	1	0
科学体験 (件)	6	0	5	0	5	1
前各号に類する分野 (件)	5	1	2	0	6	2
合計 (件)	36	5	26	5	33	5

(左側数字:応募件数、右側数字:助成件数、分類は審査時)

3. 第30回(2014年度) マツダ研究助成一覧 – 青少年健全育成関係 –

助成対象研究の概要は、以下のとおりです。

研究題目および研究概要	研究代表者	助成金額(万円)
対人不安症状に対する複数のヒト型ロボットを用いた集団療法	熊崎 博一 福井大学子どものこころの発達研究センター 特命助教	90
<p>発達障害を含め対人不安が強く集団適応が困難であるケースは多数存在し、集団療法への参加ですらままならないケースも多い。対人不安の強い児の多くがロボットに対してはある程度の向社会的態度を示すことが分かってきている。M3-Synchyは複数ロボットと人間との言語的および非言語的集団コミュニケーションを研究するためのプラットフォームであり、M3-Synchyを用いた集団療法のプログラムの作成が目的となる。多くの児が集中して複数の動く物体という設定に慣れ集中できる環境を設定し、M3-Synchyを用いた集団療法のエビデンスを確立する。</p>		
他者への親切行為が青少年の精神的健康および生活の質に及ぼす影響の実践的検証	前原 由喜夫 長崎大学教育学部准教授	90
<p>ボランティアなどの社会貢献活動に参加したり、日頃から他人に親切にする人ほど心身ともに健康だということが、数々の調査研究によって示されてきた。しかしながら、親切行為と健康との因果関係や親切行為がどのような心理的变化を引き起こすかは明らかになっていない。本研究はボランティア活動や他人への親切が、親切行為を行う本人の自己効力感や自己制御能力に良い影響を及ぼし、ひいては学業成績の向上や健康維持行動の増加に役立つメカニズムを青少年のボランティア活動などを通して実践実証的に検討する。</p>		
小規模グループケアにおける職員の人材育成モデルの構築	岡本 晴美 広島国際大学医療福祉学部准教授	70
<p>近年、小規模グループケアが推進されているが小規模化には多くの課題もある。たとえば「職員が一人で多様な役割をこなすため、職員の力量が問われる。新人の育成が難しい。」「閉鎖的あるいは独善的なかわりになる危険性がある。」などである（「児童養護施設の小規模化及び家庭的養護の推進のために」H24.11参照）。本研究では、小規模グループケアにおける職員の人材育成モデルの構築をめざす。第1年度に人材育成プログラムの企画、効果測定・検証のための指標を作成しプログラムを提供する。第2年度に検証を行う。</p>		
発達障害を有する子どもの食行動の困難と健康・発達支援に関する研究	田部 絢子 大阪体育大学健康福祉学部専任講師	70
<p>本研究の目的は、発達障害の子どもがどのような「食行動」に関する困難を有し、いかなる理解と支援を求めているのかを、発達障害の本人・当事者への調査を通して実証的に解明していくことである。発達障害児は食に関する多様な困難を有しているが、「わがまま」「甘やかしている」と誤解されやすく、不適切な支援により二次障害に至るケースもある。それゆえに発達障害者の食の困難については、困難を示す背景・要因やニーズについて、発達障害の本人・当事者調査を通して明らかにしていくことが必要である。</p>		
子どもの成長発達とソーシャル・キャピタルの関係に関する実証研究	山下 絢 日本女子大学人間社会学部専任講師	80
<p>本研究は、「社会におけるつながり・信頼・規範」（ソーシャル・キャピタル）に焦点をあて、義務教育段階の子どもの成長発達におよぼす効果の検証とソーシャル・キャピタルが醸成される条件整備を実証的に明らかにするものである。近年、保護者の社会経済的地位（学歴や年収）が子どもの学力形成におよぼす影響が強くなっていることが指摘され、子どもの学力や非認知能力（やる気や集中力など）の格差拡大が指摘されている。そのなかで、ソーシャル・キャピタルがこのような格差是正に効果的であることが一部の研究においては、確認されはじめている（例：『「つながり格差」が学力格差を生む』）。そこで本研究は、定量的分析（統計分析）と定性的分析（インタビュー調査）を通じて、研究の端についたばかりのソーシャル・キャピタルが子どもの成長発達におよぼす効果を実証すると同時に、どのような条件が整えられれば、ソーシャル・キャピタルが醸成されやすくなるのか、その環境要件を検討する。</p>		
合 計	5件	400万円

Ⅱ－２．市民活動支援

1．募集・応募・選出状況

第30回(2014年度)青少年健全育成市民活動支援を以下により実施しました。

(1) 募集

募集要項記載概要は、以下のとおりです。

- | | |
|--------------|--|
| (a) 対象活動 | 青少年の健全育成を目的とした、民間の非営利活動
①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯
④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (b) 募集地域 | 広島県、山口県 |
| (c) 支援期間 | 単年度支援 2014年4月1日～2015年3月31日の1年間 |
| (d) 支援金総額 | 1,000万円 |
| (e) 1件当り支援金額 | 10万円～50万円 |
| (f) 募集期間 | 2013年10月15日～2014年1月10日 |

(2) 応募状況

締切日までに110件の応募を受理しました。その内訳は、以下のとおりです。

- | | | |
|---------|-------------|----------|
| (a) 地域別 | ・広島県 | 33件(30%) |
| | ・広島市 | 48件(44%) |
| | ・山口県 | 29件(26%) |
| (b) 分野別 | ・自然とのふれあい | 22件(20%) |
| | ・ボランティア育成 | 13件(12%) |
| | ・地域連帯 | 50件(45%) |
| | ・エコ | 4件(4%) |
| | ・国際交流・協力 | 9件(8%) |
| | ・科学体験・ものづくり | 12件(11%) |

(3) 支援対象の選出

選考委員会(2014年2月12日、13日開催)での審議の結果、支援候補として、総計39件1,000万円が選出され、2014年3月17日開催の第15回理事会において正式に承認決定されました。

(4) 支援金贈呈書の贈呈

- ・広島県 2014年4月22日、マツダ株式会社本社で贈呈式・交流会を開催。広島県内の29団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。
- ・山口県 2014年4月24日、マツダ株式会社防府工場で贈呈式・交流会を開催。山口県内の10団体に対して、支援金贈呈書を贈りました。

2. 支援件数の推移

本年度を含む3年間の支援件数、内訳は次のとおりです。

(応募件数および支援件数)

	本年度(第30回) 2014年度	第29回 2013年度	第28回 2012年度
応募件数 (件)	110	100	108
支援件数 (件)	39	31	32
支援比率 (%)	35	31	30
支援金総額 (万円)	1,000	800	800

(地域別状況)

地 域	2014年度		2013年度		2012年度	
	左	右	左	右	左	右
広島県 (件)	33	13	41	11	40	14
広島市 (件)	48	16	36	13	38	12
山口県 (件)	29	10	23	7	30	6
合計 (件)	110	39	100	31	108	32

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

(分野別状況)

分 野	2014年度		2013年度		2012年度	
	左	右	左	右	左	右
自然とのふれあい (件)	22	6	22	5	15	3
ボランティア育成 (件)	13	5	12	5	19	5
地域連帯 (件)	50	21	39	12	54	13
エコ (件)	4	1	6	1	5	3
国際交流・協力 (件)	9	2	12	4	5	3
科学体験・ものづくり (件)	12	4	9	4	10	5
合計 (件)	110	39	100	31	108	32

(左側数字：応募件数、右側数字：支援件数)

3. 第30回(2014年度) マツダ市民活動支援一覧 -青少年健全育成関係-

活 動 名	団 体 名	地域	金額 (万円)						
届けよう子どもたちに 甲田の民話「とんかちり」	甲田町地域振興連合会	広島県 安芸高田市	30						
馬洗川環境美化活動	NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ	広島県 三次市	20						
鹿川小学校&中町小学校環境総合学習支援事業	能美脱温暖化未来会議	広島県 江田島市	35						
地域の子育て支援の為にフリースペース、ものづくり、遊びの企画、リズム遊びなどを実施	みんなの寺子屋	広島県 広島市	15						
冒険遊び場inひろせふれあいの丘	ひろせ冒険遊び場運営委員会	広島県 福山市	20						
カンナがつなぐ平和のバトン -カンナプロジェクト	広島市立大州小学校 カンナプロジェクト	広島県 広島市	20						
障がい児が主体の音楽活動	くちたにこにこくらぶ	広島県 広島市	20						
自閉症・知的障がい・肢体不自由児の音楽サークル	ぼこあぼこ	広島県 広島市	20						
バリアフリー・プロジェクト ～いつでもだれでも集まれる拠点作り～	特定非営利活動法人夢の広場ようこそ	広島県 広島市	30						
互理プロジェクト「TEAMわっこう」	学生ボランティア団体OPERATIONつながり 震災復興ボランティア事業部	広島県 東広島市	30						
行動人であれ！未来の地球のためにー広島からアマゾンへー 若者による先住民との交流・国際理解活動	(特活)熱帯森林保護団体ひろしま	広島県 広島市	20						
冒険遊び場 てんぐりかっぱ 遊具修繕及び作業小屋補強事業	冒険遊び場 てんぐりかっぱ	広島県 福山市	16						
郷土料理で繋ぐ健康な地域づくり	一般社団法人 農・食・医 同源研究センター	広島県 広島市	20						
いのちの教室	特定非営利活動法人SPICA	広島県 広島市	30						
地域住民・栗原小学校等の連携による環境保全活動(30周年記念誌発行事業)	栗原地区地球温暖化対策地域協議会	広島県 尾道市	20						
広島県の学生による、広島県の学生の“ポジティブな社会的影響力の向上”を目指したプロデュースプロジェクト	Port+ project	広島県 東広島市	40						
みんなでつくろう！わがまち公園マップ	チャイルドリーフ	広島県 安芸郡	30						
安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」	安地区まちづくりプランプロジェクト「おとなりさん」	広島県 広島市	19						
ひがしひろしま音楽キャラバン/生の音楽に接する事が難しい環境の子ども達のための音楽事業	東広島青少年オーケストラ運営委員会	広島県 東広島市	25						
青少年のロボット競技へのチャレンジ活動 ～「マツダ財団オープン大会」の開催～	ロボカップジュニアジャパン広島ブロック運営委員会	広島県 広島市	30						
まちづくり=ひとづくり ～人と人の心をつなぐ～ さんさんキャンプ・5周年イベント	さんらいず	広島県 広島市	30						
陽だまり発！子どもの居場所づくり	特定非営利活動法人 陽だまり	広島県 東広島市	20						
ソーシャルスキルアップ支援事業 ～カカオチームの接客マナー研修とスピーチ活動～	日本ダウン症協会広島支部えんぜるふいっしゅ	広島県 広島市	25						
忍者まちをはしる！三次の巻	NPO法人三次おやこ劇場	広島県 三次市	30						
児童(低学年)のメンタルヘルス対策「ストレスマネジメントをプログラム化し、ストレスに強い子どもを育てよう！」	タッチ・コミュニケーションを楽しむ会in佐東	広島県 広島市	30						
湯来こども教室	湯来のまち再生プロジェクト協議会	広島県 広島市	13						
ボランティアリーダー育成とボランティア活動の実践(広島と福島の中高生の交流を通して)	高校生災害復興支援ボランティア派遣隊	広島県 広島市	50						
地域における高校生・大学生のキャリア教育	特定非営利活動法人ひろしまジン大学	広島県 広島市	20						
発達に何らかの課題のある中学生・高校生の居場所づくり	発達に何らかの課題のある中・高校生のサロン「てらこや」運営委員会	広島県 福山市	35						
地域で育てる地域の子どもたち ～運営協議会の新たな試み 子どもクラブ～	長門市中央公民館運営協議会「子どもクラブ」担当	山口県 長門市	25						
宇部市レクリエーション協会40周年記念 兼 あそびの城10周年特別体験事業	宇部市レクリエーション協会	山口県 宇部市	20						
通学合宿「たかみず」	高水通学合宿実行委員会	山口県 周南市	21						
～子どもと読書の橋渡し～ 子どももおとなも本の世界を楽しもう！	おはなしの会「おひさまにここにこ」	山口県 宇部市	36						
第21回青少年日韓交流	社会福祉法人 防府海北園	山口県 防府市	30						
小中学生に郷土の収集民俗資料と歴史資料の体験学習	牟礼郷土誌同好会	山口県 防府市	15						
虹の鯉のぼりプロジェクト	浅江まちづくりの会	山口県 光市	30						
理系子ども育成応援活動	特定非営利活動法人 山口科学技術子供フォーラム	山口県 防府市	20						
つながる、つなげる、こどもキャンプ2014	認定NPO法人こどもステーション山口	山口県 山口市	35						
アクティブシニア住民力による青少年育成 (自治会創立48周年記念事業)	彦島山中町自治会	山口県 下関市	25						
合 計	39件	1,000万円	<table border="1"> <tr> <td>広島県</td> <td>29件</td> <td>743万円</td> </tr> <tr> <td>山口県</td> <td>10件</td> <td>257万円</td> </tr> </table>	広島県	29件	743万円	山口県	10件	257万円
広島県	29件	743万円							
山口県	10件	257万円							

Ⅱ－３．感動塾・みちくさ

感動塾・みちくさの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「感動塾・みちくさ」は、子どもたちが身近な生活の中にあるものを題材として、仲間づくりを行い、協力・創意工夫することにより、未知なる物への興味を喚起し感動する心を育むこと、合わせて科学や技術への興味、関心を高めることを目的とした事業であり、平成10年度から実施しています。

(2) 共同開催

(公財)広島市文化財団との共催。

(3) 開催場所・開催日等

① 広島市三滝少年自然の家

・2014年8月20日～8月22日

・テーマ：「ふしぎ 発見 感動体験」～水とエネルギー～

・ねらい 実験、工作などの直接体験をする。

科学の楽しさや不思議さを探求し、発見や感動を獲得する。

課題解決へ向けてのプロセスを大切に、問題解決能力を身に付ける。

異年齢集団における生活の中で、仲間との協力や、協調することの大切さを学ぶ。

・参加者：小学4～6年生 45名

② 広島市似島臨海少年自然の家

・2014年9月13日～9月15日

・テーマ：「砂の不思議」

・ねらい 子どもたちの理科離れが進んでいるため、周囲の自然に目を向けさせ、理科への興味・関心をもたせる。

集団行動をとることが苦手な子どもたちが増加しており、集団生活において必要なコミュニケーション能力を育てる。

・参加者：小学4～6年生 36名

*青少年野外活動センターで開催を予定していた「感動塾・みちくさ」は、広島市8・20豪雨災害の影響で道路の通行が危険なこと、また開催期間中の天候の見通しが立たなかったことから、参加の子どもたちならびに学生ボランティアなどのスタッフの安全を最優先に考え、災害発生の翌日8月21日に開催の中止を決定し、当日中に参加者の保護者ならびに関係者の方々へ中止の連絡を行った。

(4) 実施額

100万円(マツダ財団負担分)

II-4. スタートラインプロジェクト

スタートラインプロジェクトの実施概要は、次のとおりです。

(1) 内容

「スタートラインプロジェクト」は、被虐待児等の自立を支援することを目的とした事業です。子どもシェルター「ピピオの家」（緊急避難場所）及び「はばたけ荘」（自立援助ホーム）を開設・運営しているNPO法人ピピオ子どもセンターとの連携で、被虐待児等の成長や、それを支えるスタッフの能力開発、広報活動の充実等を支援する事業を、平成25年度から実施しています。

(2) 連携先

特定非営利活動法人ピピオ子どもセンターとの連携。

(3) 主要事業

被虐待児等に対する学習支援や就職・自立の支援、また、スタッフ・ボランティアスタッフのスキルアップのために、研修への参加や養成講座の開催等に対する支援を行った。

① 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・実施概要：「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者に対する、マネー講座、図書購入、就業活動のための費用支出、自立支援のための支出、誕生会やクリスマス会などの行事の開催などを行った。
- ・対象者：今年度の「ピピオの家」の入居者 7名、「はばたけ荘」の入居者 5名

② スタッフの能力開発を支援するプログラム

「第5回NPO法人ピピオ子どもセンターボランティアスタッフ養成講座」

- ・実施概要：スタートラインプロジェクト実行委員会（ピピオ子どもセンター・マツダ財団）として、以下の通り共催した。

2014年6月11日	ガイダンス及びボランティア体験報告
2014年6月18日	発達障害のある子どもとの関わり方
2014年6月25日	児童相談所と一時保護所の実情
2014年7月 2日	居場所のない子どもたちの実情と関わり方
2014年7月 9日	シェルターに関わる法制度（民法改正、児童福祉法、など）
2014年7月16日	虐待被害が及ぼす子どもへの影響を考える
2014年7月23日	思春期の子どもの心理
2014年7月30日	性被害や性虐待を受けた子どもの支援

- ・参加者：一般 6名、大学生 12名の計18名が受講。

このうち16名が全8講を修了し、さらにこのうち12名が、相談・面接を経て、ピピオのボランティアスタッフとして登録した。

その他、ピピオ子どもセンターの実施する以下の活動を支援した。

2014年8月23日	自立援助ホームでの研修（カリヨン子どもセンター及び広島学園）
2014年9月14日～15日	日本子ども虐待防止学会・国際子ども虐待防止学会名古屋大会への参加
2014年11月1日～2日	子どもシェルター全国ネットワーク会議2014（札幌）への参加

(4) 実施額

195万円(マツダ財団負担分)

Ⅱ－５．第３３回講演会

青少年健全育成事業の一環として講演会を毎年実施していますが、本年度は財団設立３０周年記念として講師に歌手・俳優・作家の美輪 明宏氏を迎え、「子供の教育、親の教育」と題して開催しました。講演の案内は県・市の教育委員会やＰＴＡへ行い、また新聞・ミニコミ誌等を通じて広く聴講希望者を募りました。

当日は、１，５００名のお客様にご来場いただき、会場は満席となりました。

美輪氏は、文化・芸術論から心豊かで美しい生き方まで、幅広く例を挙げて話されました。講師のお話は、たとえ親子の間でも微笑みやきちんとした言葉遣いを忘れず接することの大切さ、それには、親自身の日々の心の持ち方も大切なのだということに気づかされるものでした。聴衆全員を一瞬にして美輪氏の世界に引き込む話術、独特の佇まい・雰囲気により、９０分は瞬く間に過ぎ、１０分程予定より長く聴く事が出来ました。

聴講された皆様からは、「生きていく上での新しい視点や、子どもたちへの教育の芯のようなものを授けて頂いた」等の感想をいただき、大いに満足していただけたものと推察しています。

講演会の概要は、次のとおりです。

- (1) 講 師： 美輪 明宏氏（歌手・俳優・作家）
- (2) 演 題： 子供の教育・親の教育
- (3) 開 催 日： ２０１４年８月１９日(火)
- (4) 開催場所： 広島国際会議場 フェニックスホール
- (5) 聴講者数： １，５００名

II-6. 大学寄付講義の実施概要

社会人、企業人として必要な視点・能力を醸成すべく、「柔らかな社会」「地球の有限性」「人類愛」「国際化・グローバル化」を共通キーワードとして、地域の大学に対する寄付講義を実施しました。マツダ財団は各講座の企画、講師調整、講義準備、講座運営を担い人材、ノウハウ、コンセプト、講義等の提供を行いました。また、マツダ財団のネットワークや人的資源を活かした講師派遣も行いました。

(1) 対象学生と目的

- ①工学系学生 (今年度開講なし) 近年、社会は高度かつ複雑に変化し、技術も多様な側面を持ちつつあります。次代の技術者として必要な社会における技術の多角的な視点(環境・情報・国際化・技術者倫理等)について、次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。
- ②人文系学生 社会の仕組みを理解するとともに、現在の日本の課題、世界の課題を社会科学的視点によりとらえ、これから必要とされる「柔らかな社会」での生活者、社会人としての役割やビジョンについて次世代を担う学生と共に考える双方向方式の講義です。

(2) 特徴

- ①複数の協力機関からの講師陣
- ②キーワードによる講義の一貫性の保持
- ③大学毎の特徴づけ
- ④学生と講師の双方向授業

(3) 実施講義

実施内容は、以下のとおりです。

大学名	講義科目	期間	講師所属機関	特徴	開講年度
安田女子大学	現代社会と人間B ボランティア活動	2014 5.24, 5.31 集中講義 夏休み実習	・ひろしま市民活動ネットワーク HEART to HEART ・比治山大学 ・学生ボランティア団体「OPERATION つながり」 ・(特活)ANT-Hiroshima ・ひろしままちづくりファシリテーターズ	広島県内単位互換科目。講義と実地研修とを組合せた形で、ボランティア理解、ボランティア活動に必要なリーダーシップの育成・チームワーク力の醸成、ボランティア活動参加による感動体験を得ることを目的として実施。7名が8箇所の事業所や団体でボランティアとして活動した。	2000年

この他、以下の講座へ講師派遣を行った。

広島大学「コミュニケーション能力開発講座(ディベート演習)」

広島大学 医工連携人材育成研修「イノベものづくり士」(商品企画概論)

県立広島大学「広島プレミア科目Ⅰ」(グローバルビジネスと商品企画)

県立広島大学「広島プレミア科目Ⅱ」(ディベート)、「広島プレミア科目Ⅱ」(集中演習)

Ⅲ. 管理事項の概要

Ⅲ-1. 役員等に関する事項

1. 平成27年3月31日現在の役員・評議員の名簿

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
理 事 長	代表理事	非常勤	金 井 誠 太	マツダ株式会社 代表取締役会長
専務理事	代表理事	非常勤	吉 原 誠	マツダ株式会社 執行役員・総務・法務室長
常務理事	業務執行理事	常 勤	魚 谷 滋 己	公益財団法人マツダ財団 事務局長
理 事		非常勤	上 田 宗 冏	上田宗箇流 家元
理 事		非常勤	岡 谷 義 則	株式会社中国新聞社 代表取締役社長
理 事		非常勤	高 橋 超	広島大学 監事
理 事		非常勤	浜 中 典 明	公益財団法人広島市文化財団 常務理事
理 事		非常勤	平 谷 優 子	弁護士
理 事		非常勤	山根 八洲男	広島大学大学院工学研究院 特任教授

(五十音順・敬称略)

監 事		非常勤	高 橋 義 則	公認会計士
監 事		非常勤	藤 本 哲 也	マツダ株式会社 執行役員・財務本部長

(五十音順・敬称略)

財団役職		常/非常勤	名 前	役 職
評 議 員		非常勤	浅 原 利 正	広島大学長
評 議 員		非常勤	安 藤 周 治	特定非営利活動法人ひろしまNPOセンター 代表理事
評 議 員		非常勤	大 杉 節	広島大学宇宙科学センター 特任教授
評 議 員		非常勤	小 柴 是 睦	公益財団法人中国電力技術研究財団 専務理事
評 議 員		非常勤	佐 藤 次 郎	一般財団法人日本語教育振興協会 理事長
評 議 員		非常勤	進 士 正 人	山口大学大学院 理工学研究科長・工学部長
評 議 員		非常勤	杉 本 俊 多	広島大学大学院 工学研究院長
評 議 員		非常勤	竹 林 守	マツダ株式会社 名誉相談役
評 議 員		非常勤	中 村 健 一	県立広島大学長
評 議 員		非常勤	長 尾 ひろみ	公益財団法人広島県男女共同参画財団 理事長
評 議 員		非常勤	農 沢 隆 秀	マツダ株式会社 技術研究所 技監
評 議 員		非常勤	吉 田 総 仁	広島大学 副学長
評 議 員		非常勤	渡 辺 一 秀	マツダ株式会社 相談役

(五十音順・敬称略)

2. 役員等の異動状況

- 堀 憲次氏及び山西 正道氏は平成26年6月25日評議員を退任し、進士 正人、長尾 ひろみ、農沢 隆秀の3氏が平成26年6月25日評議員に選任された。
- 浅原 利正、安藤 周治、大杉 節、小柴 是睦、佐藤 次郎、杉本 俊多、竹林 守、中村 健一、吉田 総仁、渡辺 一秀の10氏は、平成26年6月25日評議員に再任された。
- 魚谷 滋己氏及び浜中 典明氏は、平成26年6月25日理事に再任された。
- 友田 民義氏は平成26年10月29日監事を退任し、高橋 義則氏が平成26年12月10日監事に選任された。

Ⅲ－２．職員に関する事項

役職名	名 前	主たる担当職務
事務局 長	魚 谷 滋 己	・事務局統括
事務局 長代理	佛 圓 哲 朗	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財団の普及・啓発に関する事業計画の策定及びその実施に関する事項
事務局 長代理	永 松 貴 文	・事業計画・収支予算の策定及び財務・会計に関する事項 ・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
総務課 長	世 良 和 美	・理事会、評議員会、選考委員会の運営に関する事項 ・主として、青少年健全育成関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・大学講義開講に関する事項
事務局	酒 井 知 美	・主として、科学技術振興関係の助成等の事業計画の策定及びその実施に関する事項 ・財務・会計に関する事項 ・講演会開催に関する事項

* 西川 俊秀（事務局 長代理）は平成27年1月10日付で退任した。
佛圓 哲朗（事務局 長代理）は平成26年11月1日付で就任した。

Ⅲ－３．理事会・評議員会等、主な活動事項

(理事会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 6 回理事会	平成26年6月3日	第1号議案 平成 2 5 (2013)年度事業報告及び決算承認の件 第2号議案 理事候補 2 名推薦の件 第3号議案 第 7 回評議員会招集に関する件 [報告事項] 1)2014年度科学技術振興関係事業助成の件 2)職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 1 7 回理事会	平成26年6月25日	第1号議案 業務執行理事及び常務理事選定の件 [報告事項] 公益法人の事業報告書等の提出書類	原案どおり承認可決
第 1 8 回理事会 (決議の省略)	平成26年9月25日	第1号議案 第 3 0 回(2014年度)科学技術振興及び青少年健全育成研究助成対象決定の件 第2号議案 第 3 1 回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援計画決定の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 1 9 回理事会 (決議の省略)	平成26年11月27日	第1号議案 監事候補 1 名推薦の件 第2号議案 第 8 回評議員会招集に関する件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 2 0 回理事会	平成27年3月18日	第1号議案 平成 2 6 (2014)年度変更収支予算承認の件 第2号議案 平成 2 7 (2015)年度事業計画及び収支予算承認の件 第3号議案 第 3 1 回(2015年度)市民活動支援対象(青少年健全育成関係)承認の件 第4号議案 選考委員 1 3 名選出の件 [報告事項] 職務執行の状況	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決

(評議員会)

会 議 名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 7 回評議員会	平成26年6月25日	第1号議案 平成 2 5 (2013)年度決算承認の件 第2号議案 理事 2 名選任の件 第3号議案 評議員 1 3 名選任の件 [報告事項] 1)平成 2 5 (2013)年度事業報告の件 2)平成 2 6 (2014)年度事業計画及び収支予算の件	原案どおり承認可決 原案どおり承認可決 原案どおり承認可決
第 8 回評議員会 (決議の省略)	平成26年12月10日	第1号議案 監事 1 名選任の件	原案どおり承認可決

(当年度の主な活動 – 上記会議以外)

活動項目	実施年月日	概要
第30回マツダ事業助成候補の募集	平成 26.4～5	科学技術振興関係
第30回マツダ研究助成候補の募集	26.4～6	科学技術振興関係、青少年健全育成関係
第30回(2014年度)青少年健全育成市民活動支援 贈呈書の贈呈	26.4.22、4.24	助成39団体に対し、贈呈書を贈呈
科学わくわくプロジェクト「サイエンスレクチャー」開催	26.5.15、11.21(2コマ) 27.3.4、3.14	広島大学との連携事業
科学わくわくプロジェクト「ジュニア科学塾」開催	26.5.18、6.15、8.5 10.19、12.21、27.3.1	広島大学との連携事業
大学講義(安田女子大学)	26.5.24、5.31	「ボランティア活動」(広島県内単位互換科目)
平成26年度選考委員会(科学技術振興関係)	26.7.25、7.26	第30回マツダ研究助成対象の審議・選出
平成26年度第2回選考委員会(青少年健全育成関係)	26.7.31	第30回マツダ研究助成対象の審議・選出
第33回講演会	26.8.19	講師：美輪 明宏氏 演題：「子供の教育、親の教育」 (公財)広島市文化財団と共催
「感動塾・みちくさ」実施	26.8.20～8.22 26.9.13～9.15	
第30回マツダ研究助成贈呈書の贈呈	26.10～11	助成対象者に対し、贈呈書を贈呈
第31回(2015年度)青少年健全育成市民活動支援候補 の募集	26.10～27.1	広島県、広島市及び山口県の青少年健全 育成主管部門等を通じて告知
科学わくわくプロジェクト「小学校理科ひろば」	26.12～27.2	授業実践講座または模擬授業
平成27年度第1回選考委員会(青少年健全育成関係)	27.2.23、2.24	第31回市民活動支援対象の審議・選出

Ⅲ-4. 所管行政庁への申請・届出・提出に関する事項

宛先	申請等年月日	申請事項等
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成26.6.30	事業報告等の提出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成26.7.10	評議員変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成26.12.19	監事変更の届出
内閣総理大臣(内閣府大臣官房公益法人行政担当室)	平成27.3.26	事業計画書等の提出

Ⅲ-5. 登記に関する事項

登記先	登記年月日	登記事項
広島法務局	平成26.7.2	理事・評議員の変更登記 <ul style="list-style-type: none"> 平成26年6月25日 下記2氏 理事を重任 魚谷 滋己、浜中 典明 平成26年6月25日 下記2氏 評議員を退任 堀 憲次、山西 正道 平成26年6月25日 下記10氏 評議員を重任 浅原 利正、安藤 周治、大杉 節、小柴 是睦、佐藤 次郎、 杉本 俊多、竹林 守、中村 健一、吉田 総仁、渡辺 一秀 平成26年6月25日 下記3氏 評議員に就任 進士 正人、長尾 ひろみ、農澤 隆秀
広島法務局	平成26.12.15	監事の変更登記 <ul style="list-style-type: none"> 平成26年10月29日 友田 民義氏 監事を退任(死亡) 平成26年12月10日 高橋 義則氏 監事に就任